

研究者交流支援制度 報告書

1. 氏名/Name 鄭 淳一/ CHONG Soonill / Guest Professor
2. 所属機関・職名 高麗大学・教授
Department of History Education, College of Education at Korea University・Professor
3. 研究期間（入国日～出国日）
2025年6月26日～7月5日
4. 専攻/Field of Research
日本古代史(東アジア海域史)/ Ancient Japanese History (East Asian Maritime History)
5. ホスト教員氏名と所属学部研究科等/Name of host teacher and affiliation
中村友一 文学部 / Tomokazu Nakamura School of Arts and Letters

6. 講演会の概要（タイトル、日時、場所、参加人数、内容）

タイトル：韓国の歴史教育における渡来人

日 時：2025年7月3日（木） 15時～17時30分

場 所：グローバルフロント1階グローバルホール

参加人数：32名

内 容：日本古代史における「帰化人」「渡来人」という用語の使用に関する問題を研究史的に概観する。その上で歴史性ではなく現代政治的なお問題点も絡んでいることを指摘する。一方、韓国の歴史教育上の史学科目の変遷と問題点を概説し、韓国人研究者が上記の呼称を用いることに関して、新たに「渡倭人」という言葉が用いられてきていることを紹介し、今後の日韓双方における日本古代史、東アジア史についての課題を提示した。

7. 研究課題、研究概要、研究期間中の活動実績 / Research Theme, Outline, Results

2025年韓国高麗大学校の鄭淳一教授を招聘することにしたが、鄭教授は早稲田大学大学院に留学したり、京都の国際日本文化研究センターにも1年間お勤めになるなど、日韓の架け橋となる研究者である。これは、学部生・院生にとって広い視野で歴史を見直すだけでなく、グローバルな人材育成にも好影響を与えるものと推量されたためである。

6月26日に韓国・ソウルから来日し、招聘者の中村とともに和泉のインターナショナルハウスにチェックインし、その後の打ち合わせなどを行いつつ懇親を深めた。

翌27日には、大学院の中村ゼミの授業に参加し、研究交流及び懇談会を行い、相互理解を深めることになった。

28日・29日の土日は、明治大学が会場となり、招聘者が実施委員長となっていた古代交通研究会大会に両日とも参加していただき、日本史・考古学の研究者や学生・院生とも交流がはかれた。明治大学院生ともより一層交流する機会となった。

翌日以降は明治大学図書館、博物館にて資料調査を行い、講演の準備を進めたいただきつつ、各種打ち合わせなども行なった。

7月3日、講演会が実施された。学部3年生のゼミの時間を中心に設定したため、それ以外の学部生の参加が少なめになってしまったが、4年生1名、3年生全員の8名に加え、国日の学生も1名参加した。院生は体調不良で1名欠席したが、ゼミ生の4名と他大学の院生1名の参加を得た。その他の参加者は、ありがたいことにそうそうたる顔ぶれが揃った。

中には考古学の石川名誉教授や、石黒兼任講師、さらには学術交流で来日していた中国南京大学の院生の参加もあった。各大学の教員など研究者の割合が多くなったが、学部生には日本古代史のアカデミックな広がりや、卒論に向けての研究の奥深さも同時に学ぶことができた良い機会となった。

翌日、鄭先生は母校である早稲田大学や、國學院大學図書館および博物館にて資料調査を行い、7月5日に韓国への帰国の途についた。

今後ともより一層の学術交流や、横断型の研究プロジェクト構想を膨らませるなど進展する機会ともなった。研究者交流支援制度のお蔭で大きく前進することができ、制度への感謝も末筆ながら記しておきたい。

